



慣れない環境への不安もあって  
自宅にとどまることにしました

Case.16 慣れない環境

同居している祖母が認知症で、車椅子を使っているんです。避難所が家から近いこともあったし、慣れない環境への不安もあって、家族で相談した結果、自宅にとどまることにしました。



Case.18 遮断機が

障害を持つ家族がいるので、早めに避難所に行こうと決めていました。ところが、車で避難所に向かう途中にある踏切が冠水していて、いくら待っても遮断機が開かなくて。結局、あきらめて在宅避難にとどまりました。

「避難したくてもできなかった」



Case.17 躊躇して

防災行政無線がほとんど聞こえない中、自宅の裏山から大量の雨水が流れてきて、怖かったです。でも高齢の母を連れて行くのに躊躇してしまい、避難所には行きませんでした。



Case.15 情報収集

防災無線が聞こえず、情報がなかった。今回のことで「防災無線の聞き直し(テレホンサービス0120-048-392)」やメール配信を知りました。登録してみようと思います。



Case.14 わからなくて

不安はなかったんですが、被害情報を知っても地域での対応策がわからなくて……。助け合いができる共有化が必要になりますね。



Case.13 実は全然

自宅は大丈夫だったので、実はまったく不安はなかったです。ただ、ツイッターなど、情報はもっと早めに発信してほしいです。



Case.11 同じなので

男衾のコミセンと男衾小が避難所ということには知っていました。でも、避難所と自宅で条件は変わらないかなと思ったので、避難はしませんでしたね。



Case.10 防災無線が

防災行政無線が聞こえなかったので、不安になって、身支度をしました。もっと情報がほしかったですね。今回の経験から、常備品の準備や近所との連携を考えたいと思っています。



Case.9 ここは大丈夫

川から遠いので、水は心配ないと思っていました。強風で屋根瓦が飛ばないかは気になりましたが、大丈夫だろうと思って避難はしませんでした。

台風19号

あのとき私は

避難しないことを選択した

避難勧告が出ていても、大多数は「うちは大丈夫」と避難しないことを選択した。

ただ、「避難しない=不安がない」という声ばかりではない。

家族の状況、住んでいる場所によって「避難したくてもできなかった」という現実も……。

Q 台風が直撃することを知った後、どんな情報が欲しかったですか?

台風(進路・雨量・風)	37人
川(荒川・中小河川)	17人
被害・災害情報	14人
避難所情報	11人
ダムの情報	3人
その他(道路・橋・停電・町の対応)	15人



「激しい雨の音で防災行政無線が町ホームページや配信メールな情報を得ることが大切です。ま情報を受け取る側の「受援力」も

Q 台風19号のとき、災害情報をどのように入手しましたか?(複数回答)

テレビ・ラジオ	199人
防災行政無線	104人
町の配信メール	41人
エリアメール	35人
町HP Facebook	15人
近所からの連絡	8人
町のテレホンサービス	3人
広報車	3人
Twitter	2人
その他(県からのメールや地域のLINE等)	22人

全く聞こえず、不安だった」との多くの声。ど、いくつかの情報源を補完し合いながら、行政(支援力)に頼るばかりではなく、必要。「自分の命は自分で守る」意識を。

助けを求め、助けを受ける心構え

受援力



徹底取材 220人



▲災害発生時の情報収集「お役立ち情報」は裏表紙



Case.12 聞こえない

防災無線が聞こえなかったため、SNSで情報収集しました。高齢者の方だと、こういうことは難しいかもしれないね。

「聞こえない!」そんなとき

電話で聞ける防災行政無線

0120-048-392